

はじめに

第二次世界大戦後の昭和の時代、江戸川区には蓮田も残り、漁業もまだ行なわれ、田園や牧場などをはじめとするのどかな風景もみられました。やがて、京葉道路や新中川放水路、平井大橋が開通し、地下鉄東西線が着工、そして住宅数や人口も増加の一途をたどり、区内の風景も徐々に変貌を遂げていきました。

昭和31年の経済白書には、「もはや戦後ではない」という、次の時代を見据えた言葉が記されています。戦後の復興に取り組み、そして、昭和39年に開催が決まった初の東京オリンピックという、ひととき輝く明るい話題にも象徴されるように、さらに日本が「上を向いて歩こう」とした時代でした。

本展では、昭和30年代を中心に戦後昭和の江戸川区を振り返ります。明日を夢見ながら暮らしていく、そんな当時の生活の息づかいに触れ、そして、新しいこれからの時代を歩み出すための一助となること、そんな意義を込め、懐かしい写真や資料、品々を中心に展示いたします。

昭和30(1955~1964)年代前後のできごと

第二次世界大戦後の日本は、急速に復興が進み、すでに昭和31（1956）年の経済白書で「とほや戦後ではなし」とあるように、国民の生活にも戦争の苦難を一切切り捨てた。

江戸川区でも小中学校や橋、道路などの建設が進み、商店街は多くの人でにぎ

ありはじまりました。当時、区内には今よりも多くの田園地帯が広がっていました。雨の日が続くと、縦横に走る農業用水路から水が溢れ出し、区内各所で浸水騒ぎが続きました。昭和39（1964）年に就任した中里喜一区長は「良靴をはかなくても足が濡る」をマニフェストに掲げ、区内の基盤整備の指針としました。

[illegible][illegible]

〈1階ロビーにある問題の答え〉

さて、どこの駅でしょう。駅名は？



答え：
JR総武線 小岩駅

さて、この建物は何でしょう？



答え：
昭和32(1957)年の江戸川区役所

さて、この商店街はどこでしょう？



答え：
JR総武線 平井駅から見た
平井親和会商店街

さて、建設途中のこの橋の名前は？



答え：
昭和38(1963)年完成の葛西橋

思い出に残る〈我が家の昭和〉

写真提供：小岩駅前通り美観商店街(フラワーロード商店街)洋品&学生衣料菊屋の齋田照子さん



昭和29年前後の下小岩小学校の校庭で、当時は未造校舎で二宮尊徳(金太郎)の銅像がありました。最後列の右から2番目が齋田さん。



近所の塾では大学生のお兄さんが英語と算数を教えてくれました。



海印までのサイタリン。洋品店の看板娘だった昭和33年頃。



昭和33年、下小岩小学校での運動会後。横綱稲島潤一と一緒にパチリッ、大感謝！

横綱 栃錦関、母校での土俵入り!

〈下小岩小学校 災害復興相撲大会〉

昭和33(1958)年1月25日、江戸川区立下小岩小学校が火災に遭い、12教室が消失しました。

母校のために、卒業生であった^{ひこひょう かつ}栃錦関(第44代横綱)は勸進相撲(募金を募るための興業)を校庭で開催しました。

その収益金で、約5,000冊の本が昭和35(1960)年、完成した新校舎に『横綱 栃錦文庫』として寄贈されました。



焼跡を視察する栃錦関



校庭には生徒ら職員を観客が集まった

わたしの〈勸進相撲〉

その時、私は中学1年生でした。私の妹と弟が下小岩小学校の生徒でしたので、母は〈勸進相撲〉の裏方(お手伝い)をしていました。母校の卒業生だった栃錦関さんのことは小学校時代から学校中、皆で応援していて大ファンでした。

〈勸進相撲〉の当日、校庭には立派な土俵ができていて、満員の人ばかりでした。横綱 栃錦と横綱 千代の山の対戦。勝負は見事栃錦関が勝って、焼け跡の校庭に大きな拍手が巻き起こりました。

齋田 照子さん(洋服&学生衣料 菊屋店主)



あおえてますか？ あの店、あの場所、あの笑顔 探訪！〈昭和〉のえどがわスポット

私たちの身近にあるように、いつの間にか少しずつ失われていく〈昭和〉の風景。
でも、えどがわの町をゆっくり歩いてみると、昭和30年代からのたどたどしい建物やお店に出会うことができます。
なつかしい品々、食べ物、そして今もそこで働く“現役”の店主やお店の皆さん。
〈昭和〉の名残は今も区内のあちこちに息づいています。

純喫茶

昭和30年代から昭和50年代にかけて、日本各地に純喫茶が数多く開業しました。純喫茶とは、喫茶店の中でも、お茶を中心とした、落ち着いた雰囲気の店を指します。

⑨ 和食・中華 こじ

昭和30年代から昭和50年代にかけて、日本各地に純喫茶が数多く開業しました。純喫茶とは、喫茶店の中でも、お茶を中心とした、落ち着いた雰囲気の店を指します。



● 和食・中華 料理店
● 昭和30年代から昭和50年代にかけて、日本各地に純喫茶が数多く開業しました。純喫茶とは、喫茶店の中でも、お茶を中心とした、落ち着いた雰囲気の店を指します。

⑦ 夢夢亭

昭和30年代から昭和50年代にかけて、日本各地に純喫茶が数多く開業しました。純喫茶とは、喫茶店の中でも、お茶を中心とした、落ち着いた雰囲気の店を指します。



● 和食・中華 料理店
● 昭和30年代から昭和50年代にかけて、日本各地に純喫茶が数多く開業しました。純喫茶とは、喫茶店の中でも、お茶を中心とした、落ち着いた雰囲気の店を指します。

⑤ レストラン喫茶 タクト

昭和30年代から昭和50年代にかけて、日本各地に純喫茶が数多く開業しました。純喫茶とは、喫茶店の中でも、お茶を中心とした、落ち着いた雰囲気の店を指します。



● 和食・中華 料理店
● 昭和30年代から昭和50年代にかけて、日本各地に純喫茶が数多く開業しました。純喫茶とは、喫茶店の中でも、お茶を中心とした、落ち着いた雰囲気の店を指します。

銭湯

昭和30年代から昭和50年代にかけて、日本各地に純喫茶が数多く開業しました。純喫茶とは、喫茶店の中でも、お茶を中心とした、落ち着いた雰囲気の店を指します。

③ 竹の湯

昭和30年代から昭和50年代にかけて、日本各地に純喫茶が数多く開業しました。純喫茶とは、喫茶店の中でも、お茶を中心とした、落ち着いた雰囲気の店を指します。



● 和食・中華 料理店
● 昭和30年代から昭和50年代にかけて、日本各地に純喫茶が数多く開業しました。純喫茶とは、喫茶店の中でも、お茶を中心とした、落ち着いた雰囲気の店を指します。

① 旭湯

昭和30年代から昭和50年代にかけて、日本各地に純喫茶が数多く開業しました。純喫茶とは、喫茶店の中でも、お茶を中心とした、落ち着いた雰囲気の店を指します。



● 和食・中華 料理店
● 昭和30年代から昭和50年代にかけて、日本各地に純喫茶が数多く開業しました。純喫茶とは、喫茶店の中でも、お茶を中心とした、落ち着いた雰囲気の店を指します。

⑩ 高級中国料理 一品樓

昭和30年代から昭和50年代にかけて、日本各地に純喫茶が数多く開業しました。純喫茶とは、喫茶店の中でも、お茶を中心とした、落ち着いた雰囲気の店を指します。



● 和食・中華 料理店
● 昭和30年代から昭和50年代にかけて、日本各地に純喫茶が数多く開業しました。純喫茶とは、喫茶店の中でも、お茶を中心とした、落ち着いた雰囲気の店を指します。

⑧ 大衆酒場 カネス

昭和30年代から昭和50年代にかけて、日本各地に純喫茶が数多く開業しました。純喫茶とは、喫茶店の中でも、お茶を中心とした、落ち着いた雰囲気の店を指します。



● 和食・中華 料理店
● 昭和30年代から昭和50年代にかけて、日本各地に純喫茶が数多く開業しました。純喫茶とは、喫茶店の中でも、お茶を中心とした、落ち着いた雰囲気の店を指します。

⑥ ワンモア

昭和30年代から昭和50年代にかけて、日本各地に純喫茶が数多く開業しました。純喫茶とは、喫茶店の中でも、お茶を中心とした、落ち着いた雰囲気の店を指します。



● 和食・中華 料理店
● 昭和30年代から昭和50年代にかけて、日本各地に純喫茶が数多く開業しました。純喫茶とは、喫茶店の中でも、お茶を中心とした、落ち着いた雰囲気の店を指します。

④ 音曲堂

昭和30年代から昭和50年代にかけて、日本各地に純喫茶が数多く開業しました。純喫茶とは、喫茶店の中でも、お茶を中心とした、落ち着いた雰囲気の店を指します。



● 和食・中華 料理店
● 昭和30年代から昭和50年代にかけて、日本各地に純喫茶が数多く開業しました。純喫茶とは、喫茶店の中でも、お茶を中心とした、落ち着いた雰囲気の店を指します。

② 鶴の湯

昭和30年代から昭和50年代にかけて、日本各地に純喫茶が数多く開業しました。純喫茶とは、喫茶店の中でも、お茶を中心とした、落ち着いた雰囲気の店を指します。



● 和食・中華 料理店
● 昭和30年代から昭和50年代にかけて、日本各地に純喫茶が数多く開業しました。純喫茶とは、喫茶店の中でも、お茶を中心とした、落ち着いた雰囲気の店を指します。

えどがわ〈昭和〉めぐりマップ



飲食店

昭和30年代から昭和50年代にかけて、日本各地に純喫茶が数多く開業しました。純喫茶とは、喫茶店の中でも、お茶を中心とした、落ち着いた雰囲気の店を指します。

音楽店

昭和30年代から昭和50年代にかけて、日本各地に純喫茶が数多く開業しました。純喫茶とは、喫茶店の中でも、お茶を中心とした、落ち着いた雰囲気の店を指します。

に船乗船中のある日、当務員が何となく怪しい人々、民に近づきアムステルダムで有名なオランダの船乗りをしていた、ボラレンズの試合でした。よく見ると、その船乗りで遊んでいたのは、近代時代の船乗りだったんです。オランダ船民に話されたら、それこそ船乗りをやりながら上げられ、(うれしき)と同時にアムステルダム生活の「自分」の対比からくる何となく言えない、やめなさい。これもまた日本の船乗りうれしきなんですよ。いかにいっていい。

江戸川区を駆け抜けたオリンピック聖火

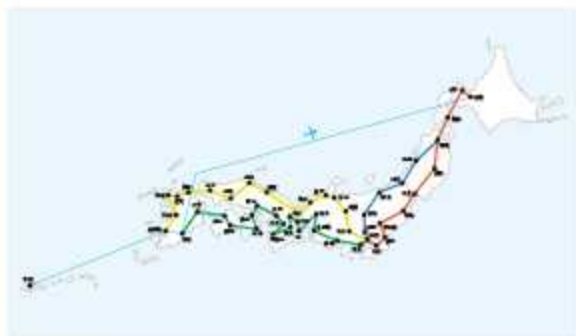
国内の聖火リレーは、全都道府県を回る4つのコースがありました。参加リレーは121区間、合わせて2,783人が走りました。

江戸川区では千葉県市川市内から来たランナーが、中里喜一区長と走者が待つ市川橋東側に到着。聖火は中里区長の手を経て、第1区間走者の小松川高校3年生小川繁春さんの手に渡り、大きな拍手がわきました。

午前11時ちょうど、小川さんが都内での第一歩を踏み出しました。その後、小川さんともう1人の正走者江戸川高校2年生高橋神さんを含む46人のランナーが、市川橋東側～柴又街道入口～奥戸新橋西側を快走、沿道では近隣の小学生らが大きな声援を送りました。11時16分、聖火は葛飾区の走者に無事引き継がれました。



聖火が中里区長から正走者に渡された



国内の聖火リレーコース



江戸川区内聖火リレーコース

経済復興を果たした日本を世界にアピール。
昭和39（1964）年、昭和の東京オリンピック・
パラリンピックは、こんな大会でした。

東京パラリンピック

参加国	22
参加選手数	375
日本選手数	53
競技数	9競技144種目
開会式	1964年11月8日
閉会式	1964年11月12日
開会宣言	葛西 嘉資
選手宣誓	青野 繁夫
選手団長	中村 裕
主競技場	代々木公園陸上競技場

東京パラリンピック 獲得メダル数					
順位	国・地域	金	銀	銅	合計
1	アメリカ合衆国	50	41	31	122
2	イギリス	18	23	19	60
3	イタリア	14	15	24	53
4	オーストラリア	11	11	8	30
5	ローデシア	10	5	2	17
6	南アフリカ共和国	8	8	3	19
7	イスラエル	7	3	10	20
8	アルゼンチン	6	15	16	37
9	ドイツ	5	2	3	10
10	オランダ	4	6	3	13
11	フランス	4	2	4	10
12	オーストリア	4	1	4	9
13	日本（開催国）	1	5	3	9

東京オリンピック・パラリンピックと江戸川区

昭和39(1964)年10月10日、第18回オリンピック競技大会が開幕。〈東洋の魔女〉と呼ばれた女子バレーボールやマラソンの円谷選手などの活躍に、日本中が熱狂しました。江戸川区では聖火リレーを滞りなく行なうため、「オリンピック東京大会聖火リレー江戸川区実行委員会」を設置し、準備を進めました。また、オリンピック開催を祝って、秋の花々を寄せ植えた五輪花壇を区役所庁舎前につくり、オリンピックムードを盛り上げました。



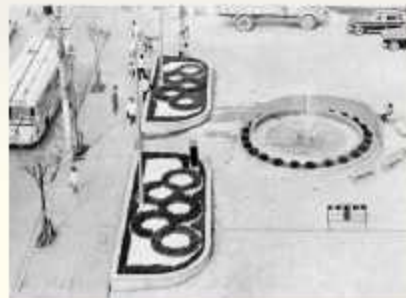
最終走者の坂井義則さんが聖火台に点火



女子バレーボール優勝の瞬間



ヒートリー選手とゴッドヒートを演じる
円谷選手



区役所前の五輪花壇とフラワー噴水

東京オリンピックにまつわる江戸川区民の思い出

- ◆ オリンピックを機に2台目のテレビを買いました。
- ◆ 聖火ランナーの後ろで区内を一緒に走りました。
- ◆ 区内を走る聖火ランナーに街道から旗を振りました。
- ◆ 弟が聖火ランナーのメンバーに選ばれました。
- ◆ 最終ランナーの坂井義則さんが聖火台まで颯爽と駆け上がる走る姿が印象的でした。
- ◆ 青空に浮かんだ五つの輪が印象に残っています。
- ◆ 東洋の魔女に熱狂。授業中にTVでオリンピック観戦しました。

- ◆ 高校の授業をさぼって、テレビでマラソンを観戦しました。
- ◆ ソ連のイリーナ・プレス、タマラ・プレス(陸上)と一緒に練習できました。
- ◆ マラソンで円谷選手がヒートリー選手に追い抜かれたシーンを覚えています。
- ◆ マラソンのアベベ選手の優勝(ゴールイン)シーン。
- ◆ 中学校ではオリンピックに関するスクラップブック作成が宿題でした。

アンケートご協力：江戸川総合人生大学の学生のみなさん

昭和30年代の江戸川区の映画館

当時、江戸川区内では小岩、平井、松江などに14の映画館があり、にぎわっていました。

1

エンジェル映画(エンゼル映画)

現在の住所: 松島3-13-3

現在: 特定できず

2

松江シネマ

現在の住所: 松江1-2

現在: 特定できず

3

松江松竹(松江松竹映画劇場)

現在の住所: 西一之江4-1

現在: 民家等

4

松江東映劇場(松江東映映画劇場)

現在の住所: 西一之江4-1

現在: 啓成ハイム松江

5

平井映画劇場

現在の住所: 平井3-23

現在: 民家等

6

平井東映

現在の住所: 平井3-25

現在: 西村記念病院

7

小岩東映(小岩日話劇場)

現在の住所: 南小岩7-17

現在: 南小岩コミュニティ会館

8

ミスズ映画(小岩ミスズ館)

現在の住所: 西小岩5-11-21

現在: パンテオン小岩

9

小岩文化

現在の住所: 西小岩5-11-18

現在: ホテル1-U

10

ムービー・キング

現在の住所: 西小岩1-28

現在: ホテル・リド

11

富士映画劇場(小岩東映)

現在の住所: 南小岩7-27-18

現在: ビカソ小岩駅前店

12

利根映画劇場

現在の住所: 西小岩1-22-4

現在: パチンコ&スロットクロス

13

小岩大映

現在の住所: 西小岩1-22-3

現在: パロマビル

14

小岩名画座

現在の住所: 西小岩1-21-2

現在: ドミール小岩

MAP



昭和30年代 えどがわグラフィティ Part2

写真は、昭和30年代の江戸川区北葛西の倉藤光由さん宅の室内の様子です。多くの家庭が東京五輪開催を機に白黒テレビを購入、子どもたちは初期のアニメブームなどに熱中しました。この頃すでに台所は、シンクやガス台が付き、近代的な形のキッチンが登場してはいたことがわかります。三種の神器（白黒テレビ・洗濯機・冷蔵庫）の登場で、生活はより便利で快適になっていきます。



倉藤光由さん宅の室内の様子



倉藤光由さん宅の室内の様子



倉藤光由さん宅の室内の様子



江戸川区北葛西の倉藤光由さん宅の室内の様子



倉藤光由さん宅の室内の様子



倉藤光由さん宅の室内の様子



倉藤光由さん宅の室内の様子



倉藤光由さん宅の室内の様子

わが家の昭和30年代

昭和30年代前半は、まだテレビのある家は少なかったし、電話もあまり普及していませんでした。うちには昭和の早い時期に電話がのびたので、よく近所の人や親戚に「電話がのびたのよ」と言われていました。『○○さん、お電話して欲しい』と勝手に頼まれたりもしました。兄夫婦は東京の郊外に引っ越して、半ばは近所の人や親戚に電話がのびたので、みんなでもういいね！と大騒ぎしたものです。

倉藤 光由さん
(左：現住所、右：旧住所)



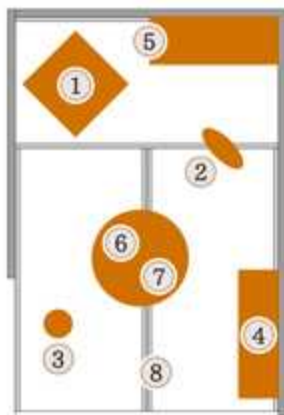
再現！あの頃、我が家はこうだった

茶の間での団らん。そばにはいつもテレビがありました。

初のテレビ放送(NHK)が始まったのは昭和28(1953)年。以来、テレビはいつの時代も世の中の出来事を伝えてくれる、いわば〈社会を覗く窓〉でした。そして、ドラマ・演芸・音楽・クイズ・スポーツなどの娯楽や暮らしの情報も、私たちの家庭にたえず発信し続けてきました。

展示の〈茶の間〉は、白黒テレビが置かれた昭和30年代の、ある江戸川区の家庭の茶の間のイメージを再現したものです。

※〈茶の間〉は、職業や家族構成、年代を特定したものではなく、昭和30年代の家庭に置かれていた家電製品や民具を使用しています。



- ① 白黒テレビ ナショナル製
- ② 扇風機 芝浦製作所製／江戸川区郷土資料室 所蔵
- ③ 電気釜 ナショナル製／江戸川区郷土資料室 所蔵
- ④ 黒電話 日本電電公社製
- ⑤ 柱時計 精工舎製／江戸川区郷土資料室 所蔵
- ⑥ 水筒 昭和マツタカ製／昭和30年代(1955～1964年)製造
- ⑦ 弁当箱 NHK人形劇「ブーフォーウ」柄／昭和40(1965)年頃製造
- ⑧ (初代)野球版※復刻版 エポック社製／資料提供:エポック社

